

新刊紹介

A Geographical Introduction to History.

By Lucien Febvre in collaboration with

Lionel Bataillon, London: Kegan Paul,

Trench, Trubner & Co. New York: Alfred

A. Knopf. 1925.

表記の書が出版された。此は「L'Evolution de l'Humanité」叢書を核心とし、劍橋イグダレンコンナツチ C. K. Ogden 編纂の業に當り、將來二百卷以上を以て完結せしめ、社會進化に關する完全なる叢書を完成せしむる目的を以て刊行中の「文明史」(The History of Civilization 叢書編輯「史前及び古代」第一編「諸論及び史前」に關する十二冊中の一冊として刊行せられたるもの、ストラスマルグ、ルシマン・フェネル教授の原著を E. G. Mounford, I. H. Paxton 兩氏の英譯せるもの)に係る。卷頭に Henri Berr の序言を置き、本文に於ては精言として先づ地理的影響の問題、即ち該問題の歴史及び其の傳統的位置、人文地理及び其の批判、本書の計畫及び目的に就て一言し、本論第一部該問題が如何に説述せらるべきかに就ては社會的形態學即ち人文地理學、原理の問題及び研究の方法、人類の進化及び歴史的進化的諸項、第二部自然的範圍及び人類の社會に就ては、境界氣候生物の問題、自然的地域及び其の境界の決

定、自然人は個人なりや將社會の一員なりや、の諸項、第三部生活の可能性及び生活法に就ては、生活の基盤たる山嶽平原高原、自然的小地方區分及其の限界、標識的生活法—狩獵及び漁撈、牧人及び農夫—遊牧的及び定住的住民の諸項、第四部政治的及び人種的群團に就ては、國境及び自然的國境の問題、交通及び交通路、都市等の諸項に言及し、結論に於ては吾人目下の急務を説き其の方法に生物學的地理學的兩方法ありとなして居る。細かき題目を一々擧げる事は出来ないが、要するに著者は地理學者の所謂土地が如何なる役目を歴史に於て演じたか如何にして之れを決定すべきかを示さんと試みた。實にアンリ・メルも云へる事ながら、環境影響の問題に純粹の單純なる地理學者の研究範圍を逸するもので斯かる複雑なる問題の取扱ひは地理的歴史家或は歴史的地理學者にして同時に多少の社會學者的才幹を有する者にして初めて着手し得る所である。然れば其の研究は甚だ困難であると共に一面其れだけ興味のあるものである。敢て我が地理學界に本書の一讀を薦める所以である。

菊版二〇三三八頁、地圖七葉、價十六志。(小牧)

○新しくて、わかり易い鑛物の鑑識法と教授の實際 栗田鼎造著

大正十四年五月 菊版四三五頁 發行所 東京寶文館

定價三圓二十錢

栗田氏は熱心なる鑛物研究の教育家である。鑛物教育の振興を計るために出版された書物で、鑛物の鑑識方法、鑛物鑑識の實際、岩石の鑑定、鑛物教授の實際、探鑛の要旨、府縣別鑛物産地目録の六篇に分けてある。鑛物岩石に關する普通の智識を

得んとするもの及初等教育のみならず中等教育に於て贖物教育に携はるもの、ために其參考書である。本書の特色は實驗方法を丁寧に記載してあることである。著者が序文に言つてゐる様に従來の贖物教育の進軍に一つの精銳なる武器を供し得たかの觀があるのは喜びにたへない。(上治)

質疑應答

問 深海の沈澱物(文檢問題)

答 チヤレンシャー號以來、各國で海洋の探檢が行はれ、大洋に於ける一千尋以上に及ぶ深海の沈澱物も知られる様になつた。鍾測によつて得たこれ等の沈澱物の研究によれば、陸地より運搬された物質は深海底には全くなくして、特殊の微細な軟泥 Ooze である。軟泥の材料は場所を異にするにつれて多少異なるけれど、一般に微細であつて一晝夜に僅半哩位移動する水の運動によつても移動させ得るといふ如き程度のものである。軟泥をつくる物質は(1)火山噴出物質、即ち風のために海洋に運ばれた微細なる火山灰、海底火山の噴出物等の沈澱、(海上に浮遊せる火山噴出物は二年位も経過すれば漸次分解して沈澱するといつてゐる。)(2)天體破片、宇宙塵(3)海面浮遊微生物の死殻又は介殼片、の三者を主とする。これ等の深海沈澱物は通常次の二大別に分類されてゐるのである。

一、石灰質に富める沈澱物 (A) グロビゲリナ軟泥 Globigerina Ooze は白色に近き殻を有する極めて微小な有孔虫の殻の集り

で、グロビゲリナ、ハステゲリナ、ピュレニヤ、スフェロディナ等が多い。グムベルの研究によるとニユーアムステルダム島附近の深海で泥土一立方種中に稍大なる五千、小なる二十萬の有孔虫類、二萬二千のその破片、七百萬のコ、ライト、十萬に達する放散虫及硅藻土、其他を調査し得たといふ。この種の軟泥は大西洋底に最も多くて、印度洋の西南部、太平洋の南部深海底等にも多少存在するのである。これは海の表面を暖流が流れる地方によく繁殖して、その死骸が海底に堆積するものと思はる。通常二千五百米乃至四千五百米の深海底にあり。(B) 翼足類軟泥 Pteropoda Ooze は微細な有孔虫の外に明に肉眼で見得る翼足類や異足類の圓錐形の殻を多量に含むものである。一般に千米乃至二千七百米位の深海底にあつて、更に深度を増す部では其の薄き殻は破壊されて見えなくなつてゐる。熱帯及亞熱帯の海底に分布し。大西洋を主とし印度洋太平洋には少ない。

二、石灰質少き沈澱物 (A) 赤色深海軟泥 Red clay と稱するは石灰質に乏しく、有機物の殻、天體の破片、宇宙塵等を含むものである。含水硅酸礬土 $5SiO_2 \cdot Al_2O_3 \cdot 2H_2O$ を主成分とし、鐵の酸化物質を含むことが通常なる故に赤色乃至褐色を呈する。これ等の外にマンガン・マグネシア・ナトリウム・カリウム及クラークの分析によれば多少のチタニウム・クロム・ニツケル・コバルト・ストロンチウム・バリウム・砒素・銅等が存在するとのことである。この赤色軟泥は主として火山噴出物の分解と陸上泥土の微細分子との結合によつて生じたものとされてゐる。而して海水の上部には石灰分に富む微生物が多きに反